

市民版 神戸ウォーク復活

阪神大震災 14年

震災から十四年。記憶の風化や市民活動の低迷を懸念した有志が企画した。主催者は「震災を知らない若者や退職して地域に戻った団塊世代らに気軽に参加してほしい」と意気込んでい

阪神大震災の被災地・神戸を歩いて教訓の風化を防ぎ、市民活動を盛り上げるイベント「こうべi(あい)ウォーク」が十一日、八年ぶりに復活する。「ボランティア元年」とも呼ばれた

風化懸念、有志が8年ぶり

「ボランティアの輪再び」



「久々に実施するので、区のお店街を歩き、商店またお願いします」。特定非営利活動法人(NPO法人)「神戸まちづくり研究所」(神戸市)のメンバーが昨年末、ルートの下見を兼ねて長田

「久々に実施するので、区のお店街を歩き、商店またお願いします」。特定非営利活動法人(NPO法人)「神戸まちづくり研究所」(神戸市)のメンバーが昨年末、ルートの下見を兼ねて長田

「久々に実施するので、区のお店街を歩き、商店またお願いします」。特定非営利活動法人(NPO法人)「神戸まちづくり研究所」(神戸市)のメンバーが昨年末、ルートの下見を兼ねて長田



被災地の復興具合を見て歩く神戸まちづくり研究所のメンバーら(08年12月、神戸市長田区)

クとルートの一部が重なり、地元企業の負担が増加。同県明石市で歩道橋事故が発生して警備面の懸念も生じたため、〇一年を最後に中止した。

実行委は昨秋、〇九年で一回目から丸十年となるのを機に、iウォークの復活を決定。背景には、震災から十年以上が経過し、被災後に活発化した市民活動が低調になったのではとの懸念があった

という。ボランティアなどの社会貢献を志す若者や団塊の世代らに、参加しやすい活動機会を提供することも狙いの一つ。今回の行程は、JR鷹取駅(長田区)近くの「大公園」から同区役所南東の共同住宅「みくら5」までの三・四キロ。指定ルートはなく、スタート地点からゴールまでを自由に歩ける。数百人の参加を想定しているが、全員で一斉には始めず、実行委側の案内役が付いた数十人のグループごとに出発するなど安全面にも配慮している。

だが、兵庫県が二〇〇九年に始めた追悼ウォークを集めてNPO法人などを

十年で様変わりした街の風景を体感してもらう。実行委員の小森星児・神戸商科大名誉教授(73)は「ボランティア元年」という言葉も生まれた神戸の市民活動を再び盛り上げたい。特別な知識や経験は必要ないので、大勢の人に気軽に体験してほしい」と話している。

参加者には、震災で壊滅的な被害を受けた「大正筋商店街」や、震災直後にボランティアの活動拠点となった「カトリックたかとり教会」のほか、復興区画整理地区など震災にゆかりのある場所を示した二種類の特製地図を配布。九九年の一回目に使ったものと〇九年の復活に合わせて作製したもので、両方を見比べ、